

平成23年度第1回生駒市子ども読書活動推進計画実践会議議事録（要約）

日 時： 平成23年7月15日（金）午後2時30分から

場 所： 図書会館 実習室

【委員】 岩崎れい、松田孝一、平井富久子、西村與里子、島谷佳子、高尾治良、
奥本恵、峯島妙、松本陽子
(欠席) 安田潤子、伊東英治

【事務局】 生田敏史、向田真理子、平澤佐千代、清水淳子、春名己容子（以上図書会館）
上田修司（以上生涯学習課）

1 開会

- ・ 辞令書交付
- ・ 委員紹介、職員紹介
- ・ 会長挨拶

2 案件

(1) 子ども読書活動推進計画実践会議の取り組みについて

◎ 新委員を迎え、事務局からこれまでの経緯や取り組み等を説明。

- ・ 家庭、地域、学校という子どもの身近にいる大人たちが読書の重要性を再認識し、互いに連携して子どもの読書環境の整備を進めるために、平成13年12月に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」を受けて、平成16年6月に「生駒市子ども読書活動推進会議」を設置し、平成17年3月に「生駒市子ども読書活動推進計画～伝えよう、ときどき わくわくを！」を策定。計画の趣旨に基づき、その推進活動の母体として、平成17年6月に「生駒市子ども読書活動推進計画実践会議」を設置。5カ年で行ってきたさまざまな活動をまとめて、平成22年3月に「生駒市子ども読書活動推進計画実践会議 5カ年のまとめと今後の課題」を作成。

◎ 主な活動状況等

- ・ 図書館では対象年齢別の5種類のブックリストを作成し、学校、幼稚園、保育園等と協力して対象全児童に配布。ボランティア等成人には図書館・室で配布。（『あかちゃん絵本リスト』（ブックスタート事業で配布）、『3才からの絵本リスト』、『読み物リスト（小学校1～3年生対象）』、『読み物リスト（小学校4～6年生対象）』、『読み物リスト（中学生対象）』）

〈ブックリストのPRとして〉

○学校等への出前授業おはなし会、出前授業ブックトーク、出前絵本の会等に出向
き、掲載本を紹介してブックリストのPRを行う。

○ブックリスト掲載図書をセットにして図書館から学校等へ団体貸出。

○ブックリスト掲載本の読書意欲向上をはかるため、“ふくちゃん本よも隊”を結成。
(入隊希望者に読書記録ノートとして“ふくちゃん本よも手帳”を配布。読んだ本の表紙のシールを貼る。)

- ・ 平成 21 年 10 月から健康課の「こんにちは赤ちゃん事業」とタイアップした、ブックスタート事業を実施。(ブックスタートとは、地域に生まれたすべての乳児と保護者が絵本を介して心をふれあうひとときを持つことを目的として、絵本やブックリストなどをオリジナルバッグに入れて、読みきかせ方等の説明とともに渡すこと。)
- ・ 学校等への出前授業おはなし会、出前授業ブックトーク、出前絵本の会の要請増加。
- ・ 図書館では「子どもに語るおはなし講座」「経験者のためのおはなし勉強会」「生駒おはなしの会例会」を通して市民ボランティアの育成を継続して実施。ボランティアによって組織された「生駒おはなしの会」は、図書館主催事業への協力、学校、幼稚園、その他さまざまな場所に出向いておはなしや絵本の読み聞かせを行う等、積極的に活動している。また、図書館と文庫との連携では、団体貸出や文庫PRイベントを開催する等、図書館とボランティアの協働による事業を展開している。
- ・ スクールボランティア等からの要望により、絵本の選び方、読み聞かせ方、修理等に関する講習会等(図書館職員が担当)を実施。
- ・ 平成 21 年度は学校図書館司書を 1 人配置 小学校 3 校週 1 回
平成 22 年度は 2 人配置 小学校 6 校週 1 回
平成 23 年度は小学校 1 2 校中学校 8 校の全校に週 1 回配置(7名)

◎ 委員からの意見

- ・ 去年から着々この会議が実を結んでいる感じがする。5 ヶ年の間、実践会議主催の行事にも参加させていただいたし、昨年の森達夫氏の講演会も面白かった。あれ以来、子どもたちに絵本を読む機会があれば、科学絵本の紹介をと心がけている。
- ・ 本校の学校図書館司書配置は今年度からなので、今はとにかく図書室の本の整理をしてもらっている。図書室担当の先生の負担が軽減できて、たいへん助かっている。また、「生駒おはなしの会」による昼休みのおはなし会や、公共図書館の司書による出前授業のおはなし会実施、ブックリスト掲載図書の団体貸出等、さまざまな機会を活用している。
- ・ 中学校では来年度から全校で図書室の電算化が決まっている。自校の取り組みとして

は、先生が各2冊ずつ図書を選び、推薦図書としてリストを配布し、読書を夏休みの課題とする等、読書意欲向上を促している。

- ・朝読の時間に読む本を子ども同士で貸し借りしたり、図書館で借りたりして、一応の読書習慣が身につけてきているのかと思う反面、短い時間でちゃんと読めているのかということも親としては気になる。また、夏の読書感想文は、提出する子が少ないようで、奈良や生駒では関心度が低いと感じる。一年に一度ぐらい、ちゃんとした感想文を書いても良いのではないかと思う。

感想文は学校の取り組みによって、活発なところとそうでないところがある。感想文まではいかなくてもおすすめの本に短いコメントをつけるといった取り組みをしている学校が多い。読書感想文を書かせることについては賛否両論あるが、最近はブックレビュー程度のものは増えている。朝読については、専属の司書が配置されている私立などでは、図書室からのおすすめの本をブックトラックに載せて、朝読の時間に教室を回るといった取り組みをしているところもある。未就学児は身近な人に読んでもらうのが基本だから、保育時間には保育士による読み聞かせを積極的に行ってきた。昨年の森達夫氏講演会の影響で、最近は科学絵本にも関心が向くようになった。子どもたちと一緒に楽しみたい。保育士は日々の活動の合間にちょっと静かにさせる手段として絵本を使いがちだが、しっかりした読み聞かせの時間も作ってきたい。今年度は南分館から司書に来てもらっておはなし会を実施する機会があり、子どもたちはとてもよく聞いていた。司書の読み聞かせの仕方など、参考にしたい。

- ・未就学児は身近な人に読んでもらうのが基本。アメリカでは“ファミリー・リテラシー・プログラム”という、家族ぐるみの支援の形が広がっている。学校図書館司書の全校配置が始まってうれしく思っている。みなさんががんばっておられるし、スムーズにやっていけるようにお手伝いをしたい。
- ・学校図書館司書は、それぞれ良い方に来ていただいてよかったと喜んでいる。先日学校訪問の機会があり、学校図書館司書の活動も見学させてもらったが、たいへんがんばってくれていた。

今年度は国から交付金があり、各中学校に50万円ずつ図書室資料購入費を配分することができたので活用していただきたい。

- ・「生駒市子ども読書活動推進計画実践会議 5カ年のまとめと今後の課題」を拝見し、また、5年後も同様に子ども読書活動推進計画実践について、意欲的な取り組み、活動が積み重ねられ、今期の成果と課題としてまとめられるのだろうと期待している。各委員のお話を聞き、家庭の役割、公共図書館やボランティア等地域の役割、学校の役割、またそれぞれの連携と、これからの活動について期待されるものがある程度具体的に見えてきたところもあった。学校図書館司書が全校配置されたことは、全国的

にも誇れることである。各司書を全体でサポートし良い活動に繋げることで、司書配置の成果を示し、現在の週に一日の勤務という体制からいずれはより充実した体制へと変わっていくことも期待したい。他にもボランティアの一層の活用、例えば学校現場においてどのように拡大していくか、公共図書館と学校の人材と資料の活用や連携、家庭における読書環境をどのように整備していくことができるか、つまりは保護者への働きかけ等、これからの課題を具体的に想定し、取り組んでいく5ヵ年としていただきたい。

- ・ そのためには、中期計画も必要であるし、この会議において定期的、継続的に活動を検証していくことも必要である。生駒市では、一般的に難題である専門職とボランティアの関係、関連各部署の関係も、現在のところ良好であるから、この連携を大切にしていってほしい。

(2) 学校図書館を紹介したビデオの視聴

- ◎ わが子の通う学校図書室しか知らないが、こんな素晴らしい事例を見ると学校図書室というのは資料と人材の充実はもちろんのことだが、まず子どもが入りやすい明るい部屋であるという環境が大切だと実感した。PTAは、資料代で協力しているという以外、学校図書室についての認識がないように思うが、このような環境づくりにも関心が向けられると良い。
- ◎ 自分の子ども時代を振り返ると、無人の学校図書室しか知らない。生駒市にも学校図書館司書が配置されたのだから、その方たちの見た図書室の様子、子どもたちの様子を聞かせてほしい。また、本やおはなしの楽しさをより多くの子どもに伝えていただきたい。
- ◎ (ビデオで紹介されていた) 岡山の活動の先進的なことに驚いた。図書室のレイアウトが優れていること、学校図書館司書と公共図書館とのリンク等、素晴らしい。
- ◎ 先進地の事例を見ながら、わが校にも学校図書館司書が配置されたところだし、今後への期待が膨らんだ。また、生駒市の図書館でもさまざまな学校図書室、司書へのサポート体制をとってくれているのだから、各校への一層のPRをしていただいて、十分な活用を促進してほしい。
- ◎ 先進地事例の中で、子どもの読書への積極的な関わり方に感動した。それを導き出したのは、学校、図書館、地域の意識と活動によって生まれた環境だろう。現在、生駒市ではようやく週に一日の配置が叶ったが、今後もっと十分な環境整備がなされることを期待している。
- ◎ 学校図書館司書の能力が高いということはもちろん、学校図書室、司書を授業に活用し、読書だけでなく調べ学習をカリキュラムに組み込んでいくという意識が教諭の中

に定着していた。

- ◎ 岡山は、学校図書館活動に取り組んできた歴史が長い。岡山の学校教育で育った人と話すと、学校の図書室に司書がないということの方に驚かれるくらい。近隣では、京都市の小学校でも、学校図書室の授業への活用取り組みが進んでいるところがあるようだが、意識と活用が進むと図書室の空き時間がなくなり、先生方のニーズに追いつかなくなるという現状もある。生駒は、ようやく始まったばかり。良い方向を模索しながら進めていかなければならない。

(3) 平成23年度事業計画について

- ◎ 10月21日に先進地視察として、箕面市立東小学校、第六中学校を予定している。箕面市には、以前も視察に訪れたことがあるが、その際は夏休み期間中だったため、今回は実際に子どもの姿が見える現場を視察させてもらいたい旨申し入れており、先方の日程調整がうまくいけば、学校図書館司書が担当する授業を見学し、その後図書室運営について説明していただけるかもしれない。

(4) その他

- ◎ 学習指導要領の改訂に伴って、教育現場では「新聞」等のメディアを活用した授業展開も考えられているということを目にする。学校では、新聞の購読が行われているのだろうか。子どもたちが気楽に新聞を手にし、それをきっかけに社会に興味を持つというふうになっていければ良いと思う。
- ◎ 全校への学校図書館司書配置という前進があったのも、この実践会議において様々な立場の委員が意見交換を行い、子どもの読書活動推進のための環境づくりの重要な施策と位置づけて関係各所に連携を求めてきた成果である。今後学校図書館司書支援体制を確立することが大切であるし、そのためにも実践会議の場で委員と司書が情報提供、意見交換できる時間を持てるよう願う。